

シンガポールに新たな観光名所「リバーサファリ」の誕生

～テーマは「世界8つの大河へ冒険の旅」～

シンガポールでは、世界一高い位置にあるプール「マリーナベイサンズ（MBS）のスカイパーク」や世界最大の観覧車「シンガポールフライヤー」、東南アジアで唯一の「ユニバーサルスタジオ」といったように世界最大級・唯一を謳った大規模な観光資源の開発が行われ、急速に観光国としての存在感を強めています。

2013年12月に全面オープンしたシンガポールの新たな観光名所「リバーサファリ」を視察する機会を得ましたので、シンガポールの観光政策と併せてご紹介します。

1. シンガポールの観光政策

2013年にシンガポールを訪れた来訪者は、前年より7.2%増加し1,550万人に上りました。国土面積が小さく、資源のほとんどないこの国にとって、観光は主要産業の1つになっています。広大な自然や歴史的な建造物などが豊富でないシンガポールが、ここまで観光客を増加させたのは、大型テーマパークの造成をはじめとする政府



MBSとマーライオン像

主導の観光振興政策の賜物です。特に観光資源の開発については、外資を巻き込んだ非常に積極的な投資が行われています。2012年だけでも、「リゾートワールドセントーサ(RWS)」に世界最大級の水族館「S.E.A アクアリウム」と水着で遊ぶテーマパーク「アドベンチャーコーブウォーターパーク」から成る「マリンライフパーク」、総面積110ヘクタールを誇る巨大植物園「ガーデンズバイザベイ」といった大規模施設がオープンしました。このような新たな名所の建設以外にも、チャイナタウン、アラブストリート、リトルインディアといった伝統や文化を残す地域の保存、あるいは大型商業施設や免税店が立ち並ぶオーチャードロードの再興に政府主導で取り組んでいます。

2012年上半期 最も旅行者が訪れたシンガポールの名所

有料施設（開業年）	無料施設
MBS スカイパーク（2010年）	チャイナタウン
ナイトサファリ（1994年）	リトルインディア
RWS（2010年）	マリーナベイ
シンガポールフライヤー（2008年）	マーライオンパーク
ユニバーサルスタジオシンガポール（2010年）	オーチャードロード

（シンガポール政府観光局調べ）

この10年のシンガポールの来訪者数は、2003年のSARSの流行と2008年の世界金融危機で大きく落ち込みましたが、2012年には、MBSとRWSの2大統合

リゾートの開業、世界初のユースオリンピックの開催により一転し、過去最高を記録しました。その後も休みなく観光資源の開発が行われ、順調な伸びを続けています。

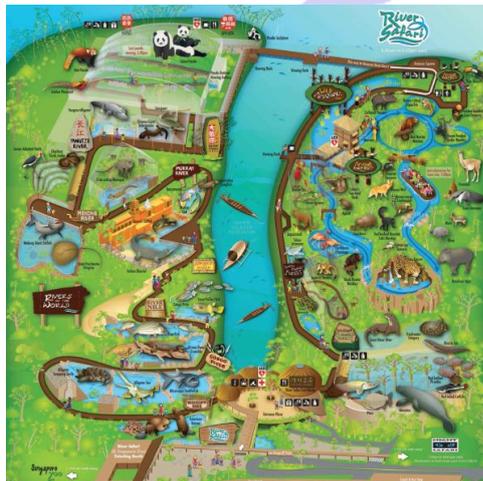
2. リバーサファリのコンセプト

リバーサファリは、シンガポールの中東部に位置する中央集水自然保護地区を切り開き、シンガポール動物園とナイトサファリに隣接する 12 ヘクタールの敷地に建設されました。植林地域の植物をうまく残したことで、緑が多く、開放感にあふれています。

世界中の 8 つの大河（ミシシッピ川、コンゴ川、ナイル川、ガンジス川、マレー川、メコン川、長江、アマゾン川）を再現したこの施設は、淡水生物専門の動物園として、40 種類の絶滅危惧種を含む 6,000 もの動物や魚が飼育されています。



緑豊かな園内と至近距離で観察できる生物
(アマゾンリバークエストの中から撮影)



中心の貯水池を取り囲む形で作られた歩道

長江エリアの中には、シンガポールと中国の国交樹立 20 年を記念して中国から 10 年間貸与されたジャイアントパンダ 2 頭が見学できる巨大ドーム型施設も建設されました。また、最後に完成したアマゾンリバークエストは、アマゾン川での冒険の旅をイメージしたアトラクションで、全長 480 メートルの人工の川を約 15 分かけてボートでくぐりながら 30 以上の生物を鑑賞することができます。他にも巨大パノラマ水槽の中を悠々と泳ぐ 10 頭以上のマナティや絶滅危惧種のワニで体長 4 メートルを超えるインドガリアルを至近距離で見学するなど見どころ満載です。

園内の展示は、それぞれの生物の生息域に近い造りになっており、動物が野生でどのように生活しているのか、来場者が学習できるように工夫されています。

世界的にも珍しい、川をテーマにしたこのリバーサファリは、アジアにいながら世界中の河を冒険できる施設として人気を集めそうです。

3 おわりに

日本を訪れた外国人数は、2013 年初めて 1,000 万人を突破しました。しかし、どの国も観光客の誘致に注力しており、世界の観光先進国との比較した訪日旅行者数は、まだまだ少ないのが状況です。ターゲットやテーマを明確にしたシンガポールの PR 手法を参考にしながら、より一層の観光客誘致活動を行っていきたいと考えています。

(宇佐所長補佐 宮崎県派遣)